

都道府県番号	45
都道府県名	宮崎県

()

・学校名及び規模

宮崎市立宮崎西小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	3	2	3	3	2	21	28
児童数	110	118	87	69	88	94	4	570	

・実践研究の概要

<p>主題(テーマ)</p> <p>確かな学力向上のための学びの在り方の創造 ~ 読み・書き・計算を中心に、個に応じた、わかる学習指導の工夫を通して ~ 5・6年生の「一部教科担任制を見通した交換授業の実施」</p> <p>テーマ設定の趣旨</p> <p>「読み・書き・計算を中心にして、個に応じた、わかる学習指導の工夫をすれば、一人一人に確かな学力が付き、進んで学習できる子どもが育つであろう。」を仮説として設定している。</p> <p>その中で、子どもを複数の教師によって多面的にとらえることにより、一人一人の児童のよさを生かすことができるようになることととも、小・中学校間の段差解消をめざすこととした。</p>
--

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

- 一人の指導者による習熟度別学習
- 一部教科担任制を見通した交換授業
- チームティーチングの指導など

の形態を組み合わせる指導を行った。

() 実践研究の内容

6年生(10月)の交換授業の分担

教科	単 元 名	時数	担当
国語	人物の心情をとらえて「海のいのち」	15	衛藤
社会	世界に歩み出した日本	13	服部
家庭	小物作り	2	
算数	比例・変わり方を調べて	15	河野

1学期までの時間割作成の問題点

- ・ 教科担任制を見越した交換授業を計画する際、現在の基本時間割や特別教室配当では、高学年の時間割作成で調整すべき時間が多く、時間割作成に時間がかかる。
 - ・ 高学年では、音楽専科、理科TT、家庭科TT、日本語指導と高学年で調整しなければならない教科等が多く、専科等から出される一教科ずつの週計画の調整が大変である。
- そこで、2学期からは、時間割作成の方法について以下のように改善していった。

2学期からの時間割作成について

- ・ 1週間前に立案する専科等の時間割を1枚のシートにして、学級担任に渡す。特別担任へ連絡すべきことは別途連絡する。(2学期から変更)
- ・ 専科等の入る時間割の枠組みを決め、学級担任が自由に変更できる時間帯をつくり、交換授業の計画を立てやすくする。その際、2時間続きや90分までの弾力的な運用ができる配慮をする。

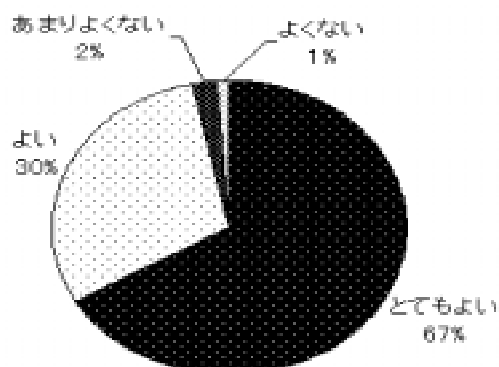
【専科時間帯の枠組み】

校 時		月	火	水	木	金
1	A校時	6年	5年	6年	5年	6年
2						
3	B校時	5年	6年	5年	6年	5年
4						
5	C校時	6年	5年		5年	6年
6						

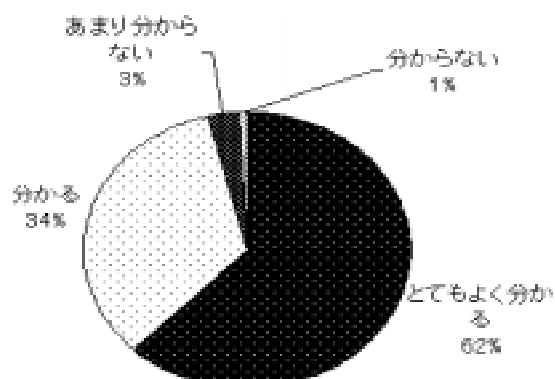
() 成果と課題

6年生は、10月に交換授業を実施したが、下のグラフからもわかるように、ほとんどの児童が、このシステムを喜んで受け入れていることがわかる。

交換授業をすることについて



学習のわかりやすさについて



平成14年度の成果及び課題

成果

- ・ 学力の基礎を読み、書き、計算にするという考えのもと、子どもの言語能力や計算能力を育てるための実践がなされ、学習に自信をもって取り組む児童がふえてきている。
- ・ 少人数指導やコース別学習の工夫によって、児童一人一人の学習状況に応じた指導ができるようになってきている。
- ・ 交換授業の実施と反省を生かして、一部教科担任制への体制づくりが整ってきている。
- ・ 一人一研を実施することを通して、それぞれの先生のアイディアや指導方法から学び合うことができ、研究の進展に大いに役立った。

課題

- ・ 計算練習だけでなく、「音読指導」や「漢字指導」などにもさらに力を入れていく必要がある。
- ・ 家庭での学習の指針を明確にし、家庭学習の充実を図っていく必要がある。
- ・ 客観的事実として、学力が向上したかどうか、説得力のある説明ができるようにするとともに、外部評価も導入していく。本校には、学校評議員だけでなく、宮崎西小教育ネットワークという組織もある。連携を密にし、双方向から学力の向上の取組を続けていきたい。

・ フロンティアスクールとしての成果の普及について

・ ホームページで公開中

(<http://www.mcnet.ed.jp/miyazaki-nishi-s/>)